

エレミヤ書51章6節 「バビロンへの復讐」

1A 神の民を食らうバビロン

1B バビロンの成り立ち

2B 選民を憎む世

3B キリスト者の勝利

2A 復讐の神

1B 全てを正される方

2B 神の愛

3B 善による報い

本文

エレミヤ書 51 章を開いてください。私たちの学びはついに、エレミヤ書の最後に来ました。午後二、50 章から 52 章までを読んでいます。50 章と 51 章には、バビロンへの裁きが書かれています。今朝はその一節を読み、「バビロン」について学んでみたいと思います。「51:6 **バビロンの中から逃げ、それぞれ自分のいのちを救え。バビロンの咎のために絶ち滅ぼされるな。これこそ、主の復讐の時、報いを主が返される。**」

私たちは前回と前々回に渡って、ユダの周りにある諸国への神の裁きを読みました。ユダ、またそれらの国々がバビロンによって滅ぼされたのは、それぞれが神に対して罪を犯していたからです。主はバビロンをご自分の器として用いられていました。しかし、では彼らは正しいのかと言いますと、全く違います。むしろ、バビロンこそそれらの国々以上にとてつもない悪を行なっていました。ここが私たちを悩ましますね。「どうして、バビロンのような悪い国が神に用いられて、私たちが裁くのですか。」という疑問です。神は、ご自分の目的のために、悪をさえ用いられるという御心があることを私たちは知ります。しかし、主は不公平な方では決してありません。主は必ず、悪を裁かれます。神はバビロンを用いられましたが、そのバビロンに対して永遠の、徹底的な滅びを用意されています。

1A 神の民を食らうバビロン

1B バビロンの成り立ち

バビロンという言葉ですが、日本では世間で使われていないのかな？と思いインターネットで調べてみました。ほとんど一般社会では使われていないようです。欧米の社会では、何となく分かります。日本では、レゲエの人たちの間では聞くことができる言葉のようです。レゲエが始まったのは、黒人の人たちがアフリカから奴隷としてジャマイカに無理やり連れて来られて、そのどうしよう

もない自分たちを虐げる権力や収益のシステムをバビロンと呼んだそうです。¹これはまさしく、わたしたちがこれから見ていく、「バビロン」の姿であります。他の説明ではこうなっていました。バビロンとは、「権力や力を持った人間が必然的に独占的な利益を持つ仕組み」とのことです。²これも、その通りですね、聖書から来ているものでしょう。これから説明していきます。

私たちはエレミヤ書の中で、バビロンという歴史の中にあつた国を見てきました。紀元前 600 年前後に台頭し、国々を凌駕したネブカデネザルが築き上げた世界帝国です。これを一般の歴史では、「新バビロニア帝国」と呼びます。けれども聖書においては、人間の歴史の中で、神のご計画の中で初めから登場し、主が再び地上に戻って来られる直前まで存在する国また都として残っています。

覚えていますか、エデンの園から四つの川が流れていました(創世 2:10-14)。一つはピシヨン川でアラビヤ地方に流れ、もう一つはギホン川でクシュ、すなわちエチオピヤに流れ、そしてヒデケルという川はアシュル、すなわち今のイラクやイランのほうに流れていました。そして、第四の川がユーフラテスです。そのユーフラテス川の下流地域にバビロンの都が後に建てられます。東はイラン、そして西や南はアラビヤやアフリカの北半分までがエデンの園でありました。それは主がお造りになってくださいましたが、そこになぜか、蛇がいて、エバを惑わしたのです。そして、アダムが罪を犯しました。蛇は呪われましたが、既にそこに悪魔がいて、神のかたちに造られた貴い存在を無き物としようとする仕業がありました。

そして、ノアの時代の洪水の後に、主はノアに命じられました。「生めよ。ふえよ。地に満ちよ。(創世 9:1)」八人の家族しかいないところで、主は祝福の命令をされ、彼らは主をあがめ、主を畏れかきこみつつ、地に満ちるように命じられていたのです。私たちが、日々、主を覚えて、毎日の生活を歩む中で神の祝福を得ることができますね。

ところが、人々はシヌアルという平地に集まり始めました。そこがユーフラテスの下流地域、バビロンです。彼らは、主に「地に満ちなさい」と命じられているのに、一つ所に集まりました。そして家は煉瓦で作り、かつての洪水の記憶が残っているでしょうか、アスファルトで壁を防水までしたのです。そして町を建てて、こう言いました。「11:4 さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。」主が命じられたことを、意図的に違反しています。反抗しています。満ちなさいと言われたのに、「全地に散らされるといけないから」と言ったのです。そして彼らは、このために自分たちが天に届こうとしたのです。神が天におられるのですが、自分たちが神のようになろうとしました。

これが「バベル」と呼ばれ、バビロンになります。創世記 10 章には、バベルを建てた権力者の名

¹ http://lovereggae.net/other/word/word_id/2

² http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1211273837

が出てきます。「ニムロデ」と言いますが、彼は、「主に反抗する、力ある獵師」と呼ばれるようになります。次々と王国を建て、それらがみなシヌアルの地にあり、その一つがバベルでした。

エレミヤの預言の中に、バビロンに対する三つの特徴的な言葉があります。50章14節、「彼女は主に罪を犯したのだから。」ということです。バビロンは罪を犯しました。「地に満ちなさい」という神の命令に背いています。そしてもう一つは、「主に対して争っている」ことです。50章24節に、「おまえが主に争いをしかけたからだ。」とあります。主に罪を犯しただけでなく、その後に神の主権に対して戦いをしかけています。バベルの塔の時は、一つに集まり、町を建て、塔を建て、わざと散らされないようにしています。そして、次に、「主に高ぶる」とあります。「50:29 主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。」神が天におられることを認めないで、自分が天に届こうとしました。罪を犯し、そのまま主に対して争い、主に対して高ぶっています。こればバビロンの特徴であり、この世は神に反抗する制度や仕組みを持っています。

バビロンがメディア・ペルシヤによって倒れる時、既に預言者イザヤがバビロンの王に対する預言を行なっていました。それは、バビロンの王の背後に悪魔が働いていたことを浮き彫りにしています。「14:13-14 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』」エバを誘惑する時からいた悪魔は、バベルの塔で、そして新バビロニア帝国においても働いています。

そしてバビロンは、終わりの日に、再臨のキリストご自身に滅ぼされる大淫婦として現れます。地上にいる王たちと不品行を行なっていて、巨大な富を有しています。そして彼女は、世界を支配する獣の上に乗る、その下には、聖徒たちが血を流して殉教している姿があります。つまり、バビロンは神に反抗し、神に属する者たちに反対し、迫害し、踏みにじっていく大きな仕組み、制度でもあるのです。

そこで使徒ヨハネは、第一の手紙で信者たちに教えています。「2:15-17 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。」神の愛か、世の愛か、どちらかしかありません。神の愛がある者は、世から憎まれ、世の愛がある者は世と共に滅びます。

2B 選民を憎む世

そして、主なる神が人々をキリスト者にしていくというのは、この悪い世から救い出すためであり、また、「ガラテヤ 1:4 キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみこころによったのです。」今ここで、主がエレミヤを通して、バビロンに捕え移されたユダヤ人に、「**バビロンの中から逃げ、それぞ**

れ自分のいのちを救え。」と言われました。私たちがキリスト者となりなぜ順風満帆にならないのか、といいますと、まさにこれが理由です。神が私たちの罪をキリストが流された血によって取り除いてくださいました。そして、私たちが悪魔の支配にいたのですが、そこから贖い出されて、愛する御子の支配の中に移してくださったのです。しかし、私たちは未だ、悪魔の支配する世に生きています。それで、キリスト者として生きることに対して、反対があり、葛藤があり、時に迫害となります。

ヨハネによる福音書や手紙の中で、イエス様が数多く「世」について語られていたことが分かります。「ヨハネ 15:18-19 もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。」キリスト者は、世から贖い出されて、イエス様のものになるように選ばれました。ですから、世が憎むとあります。

私たちはしばしば、自分を責めます。キリスト者だということだけで、そしりを受けます。反対を受けます。それで、自分が何か悪いことをしているのではないか？自分にまだ欠けがあるから、きちんと証しを立てられていないから、このようになってしまっているのではないか？と思います。けれども、それは明らかに不要な心配です。なぜならイエス様が続けてこのように話されるからです。「15:20 しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。」イエス様でさえ、迫害を受けられました。主人であるイエス様でさえ、そしりや反対を免れることはできませんでした。私たちは主人にまさるのでしょうか？イエス様よりも賢く、この世から反対を受けないでクリスチャンをやっているのでしょうか？自分をイエス様以上に良くしようと思わないでください！

そして、ここに「憎む」という言葉についてですが、私たちは深く考える必要があります。憎むという言葉は、感情というだけではありません。私たちに悪態をついたり、怒るのであれば、まだ真理に反対していて、真理に反抗していても、もしかしたらその人はかつてのパウロのように回心するかもしれません。しかし、憎むとは「その人がいないようにみなす」ということです。最大の虐めが、無視する、しかとすることです。つまり、この世は、私たちがキリスト者がキリスト者である特徴を無くしてしまうことを目的とします。クリスチャンとして生きていても、何もこの世にとって意味がないというようにみなしていくことであります。無視や無関心が、悪魔が私たちキリスト者を憎む最大の武器です。こうやって、キリスト者として生きようとする時に、その信じていることの実質をなくさせて、他の宗教を信じている人とさほど変わらないようにさせてしまいます。イエス様がなぜ、神の子であり、唯一の救い主であるのか、その塩気を全くなくそうとするのです。

3B キリスト者の勝利

しかし、大切なのは、私たちが召されたのは、この世にあって敗北し、負け犬のように生きるので

は決してない、ということです。パウロが、多くの困難や迫害を受けている中で、キリスト者のことを「圧倒的な勝利者」と言いました。「ローマ 8:35,37 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」すでに圧倒的な勝利者なのです。これから打ち勝つのではなく、もう既に打ち勝っており、それで勝利ある生活ができます。

リオ五輪において、卓球女子チームが銅メダルを取りましたが、何とその中にたった 15 歳の高校生がいましたね。伊藤美誠選手です。その母親が美誠ちゃんに幼少の時から卓球の訓練を施していたことを、ニュースで知りました。私は、実は心の中で日本のスポーツ選手があまり好きになれないというか、肝心のところで負けてしまう、精神力が弱いなあという思いを持っていましたが、とても感動しました。以前は、水泳の北島選手が金メダルを獲得した時、「ちょー気持ちいい！」と言ったのを思い出しますが、その時から何か嬉しくなりました。これまでの、ど根性のような訓練ではなくなっていることに気づいたからです。

まだ三歳や四歳ぐらいの美誠ちゃんが、なんと一日七時間の練習をします。けれども、お母さんにはこういう信念がありました。「中国に勝たせたいのではなくて、勝つのが当たり前になってほしかった。」中国は長年のこと卓球王国であり、その不動の地位は今も変わりません。けれども、お母さんは言います。「中国に勝つためにやっていたら、超えられない。中国を超えないと。」そして、なんとその時に練習している美誠ちゃんの姿に、今のプレーをしている美誠を見た、というのです。ここですね。中国に勝つためにやっていたら、超えることはできません。それは、「巨人の星」に出てくるような、ど根性の世界なのです。試合において、接戦になった時に肝心のところで、そのような努力は点を失ってしまいます。そうではなく、中国を超えないといけない、美誠が今のプレーをしている姿を幼い美誠ちゃんに見ていた、というように、既に超越して、勝利しているからこそ、勝利するのです。

これが、キリスト者に与えられている勝利です。イエス様が言われました。「ヨハネ 16:33 あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」そして、使徒ヨハネ自身、手紙でこう言っています。「1ヨハネ 5:4-5 なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」これから世に打ち勝つために私たちは、信仰を持っているではありません。既に打ち勝ったのですが、それは私たちがイエスをキリスト、そして神の子と信じているからなのです。

ですから、私たちはキリストの血によって、今の世から贖い出されました。そして選ばれた者、キリストに属する者として世から憎まれています。けれども今、与えられている信仰によって、世に打ち勝っています。決して負け犬根性のようにならないようにしましょう。決して、被害意識を持って

はいけません。私たちは必要以上に、この世に対抗してはいけません。キリストにあつてすでに世に勝っており、その勝利によってこの世に抵抗しているのに、その信仰を忘れて、あたかも自分たちで勝ち取らなければ勝利はないのだ、とします。いいえ、勝利は私たちがキリストに服従する時に来ます。キリストが自分の主となっている時に、この方に明け渡している時に、服従している時に来ます。勝利の主は既におられるのです。この方に働いていただくのです。

2A 復讐の神

1B 全てを正される方

そして将来、主はこの世を滅ぼされます。主は、バビロンによってご自分の民が虐げられるのをお許しになりました。しかし、主はご自分の愛する民を虐げたことに対して、激しい怒りを持っておられます。主は復讐されます。全ての悪と不正を滅ぼし、いっさいを新しく、正してください。エレミヤ書 50 章と 51 章には、何度も何度も、主が復讐するという言葉が出てくるのです。主は復讐の神です。

今、あまりにも多くのキリスト者が、「戦うことは罪だ」という考えを持っています。悪魔が神に高ぶって、反逆した時から戦いは始まっており、神が悪魔を滅ぼすまでは戦いが続くのです。ところが、戦いそのものが悪であるという考えをどこかで持って、「キリスト者は戦ってはいけない」とどこかで思っています。これは悪魔がキリスト者を無力化させている、非常に巧妙な宣伝です。銃を持っているキリスト者から、自ら弾丸を取ってしまうようにさせているようなものです。しかし、最近、上映された「祈りの力」にあるように、私たちは霊の戦いに召されているのです。

この世は神に対抗しています。神に争っています。神に対して高ぶっています。ですから、神は正される時を持っておられます。悪魔がもたらした一切の不条理をまっすぐにする時を持っておられます。本当にまっすぐにし、正して下さるのです。ですから、神はエレミヤを通して、ものすごく長い預言をバビロンに対する預言を与えておられるのです。バビロンが、ここまでかと言わんばかりの裁きを受けています。そして、二度と起き上がることのできない、永遠の滅びを定めておられます。神は必ずご自分の正義と真実によって、曲がってしまったものを正されるのです。パウロが迫害を受けているテサロニケのキリスト者たちを励ましている部分をお読みします。「1テサロニケ 1:4-7 それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。このことは、あなたがたを神の国にふさわしい者とするため、神の正しいさばきを示すしるしであって、あなたがたが苦しみを受けているのは、この神の国のためです。つまり、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。」

ですから私たちは、主を畏れかしこんで、不条理なこと、理解できぬ一切切を、主にお任せする必要があります。今、いろいろなことが起こります。これから、ますます自分たちの理解を超えた

事柄が起こってくることでしょう。もしそれらを見つめてしまうなら、私たちが怒らせ、落胆させ、自暴自棄にさせ、厭世的にさせ、自分のことだけを考えていけばよいと思ってしまおうでしょう。けれども、主は必ずそれらを正してくださいませ。パウロがローマのキリスト者に勧めました。「ローマ 12:19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」」

2B 神の愛

このように、世にあって生きていく中で、そして世の終わりが近づいてくると、その反対の力が強まっていくなかで、一生懸命にやってほしいことが一つあります！「ええ、頑張るってはいけない、とよく言っているのではないですか？」と言われるかもしれません。いいえ、頑張るってほしいことがあるんです。それは、「自分自身を神の愛の中に留まらせる」ということです。「ユダ 20-21 しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り、神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに至らせる、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。」そうです、神に愛されていることを一杯、知ってください！神の愛のうちに自分自身を保つのです。フランクリン・グラハムが去年、武道館に来て語った時に、彼が、「神はあなたを愛しておられます」と何度、繰り返したことでしょうか！これは、イエス様をまだ知らない人に対する言葉だけでなく、私たちキリスト者に対する言葉でもあり、そして終わりの日に、困難な時に私たちを汚れから守る、唯一の源泉です。もし、まだ神の愛に自分を明け渡していない部分があるならば、どうか、今朝、そこを明け渡してください。

3B 善による報い

そして、私たちの心は神の愛、キリストの愛に満たされれば、自分に反対する人々を祝福する力が与えられます。主にあって生きようとする自分を押し潰そうとする力に対して、それでも主の愛に留まっているならば、必ず善を行なう力が与えられます。パウロが、「復讐は神に任せなさい。」と勧めた後にこう言いました。「ローマ 12:20-21 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」善をもって、悪に打ち勝ちます。悪に対して善で報います。